THE ASTRONOMICAL HERALD $\mathbf{Q}$			
C O N T	E N T S O / 2024	表紙製作	takaco
EUREKA	慣性波を用いた新しい日震学の夜明け	戸次宥人	479
	超新星残骸は銀河宇宙線の加速源か? ―最新の高エネルギー観測からの示唆―	鈴木寛大	489
SKYLIGHT	<b>見えてきたナノヘルツ重力波</b> 高橋慶太郎・喜久永智之介・久野晋之	介・加藤亮	498
海外の研究室から	オーストラリアのスローライフ The Australian National University, Research School of As Astrophysics	<b>tronomy an</b> 津久井崇史	e <b>d</b> 509
雑報	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 Transients Down Under 2024(A conference about astrop	<i>hysical tran</i> 鶴見薫樹	<b>sients</b> ) 513
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 Extreme Solar System V	徳野鷹人	514
	研究会「Stellar Magnetic Activity Workshop 2024」報告	行方宏介	516
寄贈図書リスト			518
月報だより			518

## 【表紙画像説明】

左図は超新星残骸のガンマ線観測で得られる観測量と年齢の関係.三角は縦軸の下限値,色なしは年齢 不明.横軸は加速された粒子の分布の硬さ(高エネルギー側への偏りの度合い)を,縦軸は一般には最大 加速エネルギーを示す.色付きの帯は解析モデルであり,黒は典型的な進化,青は粒子のエネルギー分布 が特に硬いケース,赤は過去に加速された粒子が放射に寄与し続ける(現在の最大加速エネルギーは低 い)ケースを示す.右上ほど現在の宇宙線加速の性能は高い.右図は宇宙線加速が高効率な代表例である RCW 86 のX線画像(赤が熱的,青が非熱的X線)と電波連続波(1.4 GHz)のコントア.